

第2回かわさきコンパクト委員会 議事録

日 時：2014年10月6日（月）15時30分～16時30分

場 所：川崎市役所第4庁舎4階 第3会議室

出席者：〔委員〕小倉、庄司、末吉、鈴木、瀧田

〔川崎市〕地球環境推進室 中村、井田、石井、前田

〔事務局〕一般社団法人CAT 犬塚、山崎、小熊

1 議題

(1) かわさきコンパクト交流会を踏まえた意見交換について

直前に行われた交流会について、参加した委員や職員から、それぞれ出た意見や感想などが述べられた。

①ビジネス・コンパクト

- 出た意見としては、「コンパクトに参加する意義やメリットが見えない。」「9原則に取り組んでいるが、環境というテーマで取り組んでいるのが中心である。」「原則に対する各社の考え方がまちまちなので、見直しあるいは絞ることが必要ではないか」「発信力を強化して欲しい。」などがあった。

(交流会に参加した感想)

- 日本で唯一参加している自治体として、それをもっと世の中にPRしたほうがいい。
- 企業と市民が其々の考え方に立脚して活動していることがわかったので、それは更に進めていって欲しい
- 活動状況がすぐ把握できるようにし、また意志ある人が少なからずいるので、その方たちが活動やアクションを起こすような、心に火をつけるような工夫が必要であると感じた。

②市民コンパクト交流会

交流・協働の課題として

- 自分たちの事業が外へ伝わっていない、発信できていない、という意見が目立ち、かわさきコンパクトに力になってもらえるといい、といった意見があった。
- 企業が持っていて市民団体が使えるような場所などあればその情報を知りたい。
- 企業のCSR報告書はあるが、直に市民と企業とで対話する機会が欲しい。表面だけの交流にとどまっているので深いところで交流できるといい
- 3月のフォーラムなどで発信されるメッセージが企業にどこまで届いているのか？と感じる。社内でどのように広まっているか知りたい。

発信力について

- 企業で夏まつりなどを開催しているが、そこにかわさきコンパクトのコーナーを設けて市民団体が参加する、など企業に向けて発信する場が欲しい。
- 異分野の団体がコラボレーションすることで、いつもとは違った人たちへ活動を届けられる、広がっていく可能性があると思う。

(市職員)

ビジネス・コンパクトについて

- 原則に対して企業側の認識が違うことが今回わかり 9 原則の取り扱いについて整理する必要があると思った。
- パンフレットなどを利用し、企業と市民の交流や協働の取り組みを発信することによって、他の企業や団体に参加することに興味を持ってもらいたい。
- かわさきコンパクトという、なかなか他の自治体ができない枠組みを作っていることを認識・共有し、参加企業が継続的に取り組むことを期待し進めていきたい旨を交流会で伝えた。

市民コンパクト

- どうしても環境が中心になってしまうが、ジャンルが違う団体がいることを、良い点として活用していきたい。
- 環境分野以外の団体が関わっていることを活用して、発信のルートを広げてきたい。環境局以外からの発信をどのように広げていけばよいか、検討していきたい。

(2) かわさきコンパクト上期事業報告について

事務局 CAT から上期事業についての報告があった。委員長より、参加団体からの情報発信が少ない、と感じている、個々は活動が忙しいので、イベント情報を出してもらうように時々声をかけて欲しい、という意見が出された。

(3) かわさきコンパクト下期事業について

下記事項について事務局から報告があった。

<委員会について>

3月に第3回委員会を開催する予定。

新規登録について、11月にスマートライフスタイル大賞授与式があるので、参加の呼びかけの機会と捉える

<かわさきコンパクトセミナー>

自分たちの活動をどう伝えていくのか、環境フォーラムと絡めて開催したい。3回目は、2月開催で「見える化」を取り上げる予定。

<市民活動フェア>

毎回出展している、ボランティア・市民活動フェアは「ごえん楽市」と名称を変えたが、今年度も出展する予定で進めている。

<広報について>

メルマガを適宜配信していく。

企業と団体の取り組みを紹介する冊子を制作する段取りで進めている。環境フォーラムに間に合わせたい。

webサイトの活性化、リンク先、具体的には、市の人権・国際などの窓口部署と連携して増やしていきたい

メーリングリストの活性化については、事後報告で構わないので、webサイトで掲載することを呼びかけたい。

<川崎市国際環境技術展について>

・2月5、6日に予定しているが、2日目の6日に、1時間程度メインステージで時間を設けることを検討中である。

その内容について委員に意見を募った結果、末吉委員の登壇が提案された。

一通り事務局からの説明が終えた後、末吉委員よりグローバルコンパクト（以下GCとする）の本質からかわさきコンパクトの活用を考える意見が出されたので下記にまとめる。

<末吉委員の意見>

- GCは、コフィー・アナンが、グローバル経済の展開がもたらす負の遺産の解消と多くの課題解決に向けて呼びかけたのが発端で、呼びかけの対象は負の遺産をつくってきたとされるグローバル企業だった。このようにGCの意図は明確だった。
- 川崎市がGCに賛同し署名したが、GCの概念をわかりやすく市民へ伝えるために本来のGCの目的や意図を理解しつつ、川崎市の中で消化し身近なものに置き換えて進めていこうという取り組みが、ビジネス・コンパクト、市民コンパクトだった。

- 二つのコンパクトを、川崎市内でさまざまな活動をしている人の情報発信や情報交換の場にする、というのは一つの考え方である。
- 一方では、コンパクト（協約）として謳うからには、保守本流の流れを守り、「コンパクト」の本来の意味に立ち返ることも必要かという気がしている。ただ、言うのは簡単だが具体的に施策として取り組むのは実際には難しい。
- 「環境」だけではなく庁内全体に、という話は前回までの討議にも出ている。
- 市役所サイドで、問題解決や市民への啓発について、方策をコンパクトに見出していくことはできないか。それができれば、コンパクトの活かし方を企業や市民に発信できる。
- 庁内で少しずつ広がっているとのことだが、市役所自身が活用のしかたをあらためて意識してもらいたい。それができたときに本来的なコンパクトの活動が現実味を帯びるのではないかという予感がしている。

末吉委員の意見を皮切りにいくつか意見交換がなされた。

- 庁内の会議でかわさきコンパクトについて説明できるような場ができてきたということだが、それに対して各局の反応はいかがか。
- （市職員）市が発行している政策提言の冊子にコンパクトを紹介するページが設けられたり、人権団体が人権の話をするときに、「市は唯一 GC に署名している」という話がされたりといった雰囲気になっている。行政活動の中でコンパクトの意義づけを図ることは必要であり、特に GC の 4 分野に直接絡む組織（広義で考えれば全庁ではあるが）では、庁内の検討会議を活用しながら進めていきたい所存である。保守本流のコンパクトを問われてしまうと至っていないという認識だが、様々な課題に対して、市自身が「コンパクト」をどのように活かすことができるのか、あらためて内部で議論していきたい。
- 人権と労働という分野を見渡しただけで、女性の登用、効率的雇用、外国人の労働など、材料はいっぱいある。例えば、市の職場環境の在り方は GC の視点でこのような改善をしている、などコンパクトの視点を行政政策に投射していく、というアプローチもできるのではないか。
- （市職員）先ほどの交流会の感想で出たように、企業の担当者によって認識が違って、環境局がやることとは違うのではないかと、環境局でやっている「環境」だけやっているように見える、という厳しい意見もあった。これは、始めは環境を切り口とすると入り易かったということに尽きるが、環境以外の取り組みにも力を入れて欲しいということであるなら、取り組みを変えていくことも可能

性としてある、という話はさせて頂いた。とにかく川崎市自身が GC に署名している立場として、この取り組みについて考え直す時期に来ていると思っている。とはいえ、環境を通じて社会とどうかかわるか、と考えれば当然、人権や労働とも関わるところがある。狭く考えないように取り組みを進めていきたい。

- 川崎市を住みやすい街にする、という視点でこの原則を見ると全部あてはまる。働きやすい、安全安心に配慮した、安心して子育てができる、など全部絡んでいける。GC の原点は一人ひとりが住みやすい世界を作るということであるから、川崎市に置き換えても市民にとっても企業にとっても同じであるはずだ。国際環境技術展のメインステージの仕掛けとして、グローバルコンパクトに賛同するまち=最幸のまち を全面的に打ち立てていくのはどうか。市長も交えてできるといい。
- かわさきコンパクトも理念であって川崎行政のベースになるべきと考えているが、なかなかたどりつかない。ただ、川崎市は、外国人の人権や子どもの権利条約など、実際にはできている。今まで成し得てきたこれらの一つひとつがその分野で完結するのではなく「GC に署名している川崎市だからこそできる」という文脈で語られることができるようになるといい。理念に沿って色々なものができているということを知りやすく伝えていきたい。
- わかりやすく伝えつつ、目指すものを示していきたい。その点は交流会で不足していたかもしれない。
- 2020 年で東京が相当変わる。新しいことが東京発になる。横浜も変わるだろう。その両方には生まれつつ、安倍政権が地方再生を叫んで地方にスポットが当たる。川崎がこれからの 10 年で埋没しないためにはいろんな政策を打っていかないと、川崎がもっと魅力ある都市になることを強調していかないと、相対的に埋没化に陥らないようにしたい。新しい視点を持って市の魅力を訴えていくのに、かわさきコンパクトは使えるのではないかと考えている。
- 紹介ちらしを通年持参し配るなどしていく必要がある。商工会議所のパンフレットなど小さくてもよいから露出を増やしていくことが肝要である。また、市民活動センター主催の「ごえんカフェ」は異業種交流で人数も多い。もっと活用して欲しい。コンパクトは何を目指しているのか、多くの人々の目に触れる形で伝えていく必要がある。
- (市職員) 紹介ちらしは手刷りになるが、市民協働推進課主催の NPO 関連の講演会、庁内のイベントや協働事業などでも配布をしている。少しずつではあるが、

配る範囲を広げている。これからも配れる場所を検討していきたい。

- （事務局）商工会議所の機関紙への掲載に関しては検討していきたい。
- 来年はビジネス・コンパクト参加企業が関心を寄せるテーマのセミナーがあるとよい。
- ロゴについて。今まで、A6サイズほどのロゴを用意し、市民活動フェアや環境技術展などで活用してきたが、それではサイズが小さいので、A4サイズで、パウチ加工したものを団体、企業に渡すのはどうだろうか。
- （事務局）検討していきたい。

最後に、委員長から、12月7日開催の環境フォーラムに対して、かわさきコンパクト委員会は「協力」でいいか、と言う提案をしたところ異議なく全員の承認を得た。

2 閉会